

令和6年度 こども園（保育園）関係者評価  
園評価・評価委員最終評価シート  
子育てセンターなかぜ

こども園（保育園）関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価  
評価日時： 令和 7年2月13日(木) 15:00～

【こども園（保育園）関係者評価委員会構成】

学識委員 1名 地域委員 1名 保護者委員 2名

【園の教育・保育目標】

えがお かがやく なかぜっこ  
～ごっこ遊びを楽しもう～

【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した  
こども園（保育園）評価の具体的な目標や計画】

幼児期の子どもたちは憧れと好奇心に満ちあふれています。そして何にでもなりきって遊べるイメージ力を持ち、友だちとイメージを共有したり想像力をはたかせたりして、やり取りを楽しむことができます。ごっこ遊びは生活や社会などで知ったり経験したりしたことに興味・関心を持ち、遊びの中で実現する遊びです。豊かなごっこ遊びは『幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿』を総合的に含んでいます。子どもたちが人やモノと関わりながらごっこ遊びを楽しめるよう環境やきっかけを作り、10の姿との関わりを確認しながら、豊かな学びにつなげていきたいと考えます。

【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価		評価委員最終評価	
	評価	評価理由	評価	評価理由（評価委員から）
<b>I. 目標の理解</b> 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	4	・保護者には4月のオリエンテーションでグランドデザイン、重点目標について説明している。 ・職員には3月末の会議で周知し意識をして日々の業務に取り組んでいる。 ・今年度は「ごっこあそび」を園の重点目標に掲げ取り組みの様子を「森の掲示板」やブログ等で保護者に伝えている。	4	・目標が明確であり、保護者への周知、理解がされている。 ・子どもたちの“やってみよう”を大事にしている。 ・ごっこあそびは子どもも好きで園としても力を入れている。 ・ごっこあそびや運動会の参観を子どもたちが楽しそうだった。園の目標が子どもの姿に表れていた。 ・職員の意識、ねらい、目標、進め方が共有されている。
<b>II. 教育・保育の計画性と内容</b> 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	3	・指導計画は教育、保育要領をもとに全体的な計画をもとに作成している。 ・クラス内で子どもの様子や保育について情報共有や振り返りを行い保育に活かしている。 ・クラスの話し合いの時間を捻出するのに大変なクラスもあり園全体の協力体制が必要である。	4	・PDCAサイクルがしっかりされている。保護者アンケートも丁寧に行われている。 ・子どもも保護者も満足いくよう、大変な中でも協力体制をとっている。 ・運動会では発達段階に合わせたねらいを立て達成感につなげていた。 ・運動会で年長が自分の名前を言う姿やごっこ遊びでの主体的な姿、自ら考え作り出す姿などは小学校につながっていると感じた。

<p><b>Ⅲ. 子どもにとっては</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. その子らしさが認められる</li> <li>2. ゆったりとした生活</li> <li>3. 自然に触れて心ゆくまで遊ぶ</li> <li>4. いろいろな人の中で自分を知る</li> </ol>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの個性を認め、寄り添った関りを心掛けている。クラスの子も友だちをありのままに受け入れている。</li> <li>・中高生のボランティア受け入れや地域との連携など積極的に行っている。</li> <li>・乳児の時から畑や散歩に出て自然の中で五感を育てている。</li> <li>・今ある環境の中で子どもたちがゆったりと過ごせるようコーナー遊びや異年齢保育等の検討、工夫が課題である。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりが生き生きと遊びを楽しんでいる。その姿の裏には心理的な安全性が確保されている</li> <li>・職員は子どもの姿をよく見て遊びが深まるよう支援している。</li> <li>・一人ひとりの良い所を認めその子のことをよく見て指導している。</li> <li>・「畑」というよい環境を活かし保育している。いろいろな人との関りがよい刺激となっている。</li> </ul>
<p><b>Ⅳ. ファミリーにとっては</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 気軽に相談できる</li> <li>2. いつでも保育に参加できる</li> <li>3. 必要な情報が得られる</li> <li>4. 保育を通して地域に親しむ</li> </ol>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者とは日頃のコミュニケーションを大切に、保育参加の時の個人面談等で育児の悩みを聞いたり子どもの成長について共感したりしている。</li> <li>・ブログ、おたより等で園での子どもたちの様子や地域とのかかわりを知らせたりしている。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その日の出来事を担任だけでなく他クラスの職員が送迎時に保護者に話すことで保護者の安心に繋がり連携がとれていることがアンケートからもわかる。</li> <li>・子どものいいことも悪いことも包み隠さず一歩踏み込んだ話ができています。</li> <li>・ブログを楽しみにしている人が多い。</li> </ul>
<p><b>Ⅴ. 地域にとっては</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 誰でも親しく訪ねられる</li> <li>2. 園の内容がよくわかる</li> <li>3. 緊急の時頼りになる</li> <li>4. 子育てに夢がもてるように</li> </ol>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒園児やその親も気軽に遊びに来やすい雰囲気作りを大切にしている。</li> <li>・地域の育成協議会の会合等に参加し地域との繋がりを大切にしている。</li> <li>・中高生のボランティア受け入れ、読み聞かせボランティア受け入れ、果物狩り等地域との関わりを積極的に行っている。</li> <li>・親子ひろばやはますくヘルパーの利用者が増え、地域の子育て世帯に対し相談に乗ったり支援をしたりしている。また、一時預かり事業での受け入れも行い、子育ての負担軽減などに努めている。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高生のボランティアの受け入れなど積極的に行い地域との連携、関りが深く地域に貢献している。</li> <li>・卒園児にも地域にも開かれた園となっている。</li> <li>・はますく、親子ひろばなど地域にもPRをすることで利用者が増えている。</li> <li>・地域のニーズに応えたり子育ての負担軽減に繋がっていたりする。</li> </ul>
<p><b>Ⅵ. スタッフにとっては</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個性が活かされる</li> <li>2. 快適な職場づくり</li> <li>3. 生活や遊びの文化が伝えられる</li> <li>4. 視野を広げて自ら学ぶ</li> </ol>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の個性や得意なものを業務に活かしている。</li> <li>・伝統的な行事やあそびを大事にして子どもたちに伝えている。</li> <li>・研修に自主的に参加し、学んだことを他職員に伝えたり保育に活かしたりしている。</li> <li>・職員一人ひとりが自分の業務に責任を持って遂行しているが、職員間の連携、伝達が課題である。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は時間のない中、工夫をして連携を図ったり、いつも笑顔で子どもに関わったりしている。子どもが笑顔でいるのは職員の関りや姿が伝わっているからだと感じる。</li> <li>・いいチームワークができていと思われている。</li> <li>・課題があるということはまだ改善できる場所があるということ。より良い園になるよう頑張ってもらいたい。</li> </ul>